

# Dr. 板東のメディカルリサーチ No. 180

## 〈現代の インフルエンサー どう評価？〉

はたして大丈夫なのかと常々不安に感じている事がある。それは、社会における価値観の急激な変化である。いくつかの項目を対立軸で考え、リモート社会に問題を提起したいと思う。

### ◆タイム誌で 影響及ぼす 人探し

私は世界の週刊誌 [Time] を毎週楽しみにしている。最新号は「タイム 100」(TIME 100)。2004年から毎年発表している「世界で最も影響力のある100人(The 100 most influential people)」のリストと解説だった。その中でも、このたび表紙を飾ったのは、予想していた通り、台湾の蔡英文 (Tsai Ing-Wen) 総統である。ジャンルとしては、アイコン(象徴的、シンボル、偶像)、アーティスト、リーダー、タイタン(巨人)、パイオニアという5つに分けて紹介されている。日本人では、テニスの大坂なおみ氏がrole modelとして、伊藤詩織氏がsilence breakerとして、歴史に影響を与えた人物に選ばれた。



リーダーのカテゴリーでは、世界の主な政治家たちが紹介されており、トランプ氏にはdisrupter(混乱させる人)というkey wordが付いている。100人を概観しながら、感じたのは日米における価値観の差異である。日本では「沈黙は金(Silence is gold)」が比較的受け入れられてきた。一方、米国では「きしむ車輪には油をさしてもらえ (The squeaky wheel gets the oil)」が有名だ。「人にアピールすれば、その意見に賛同する者が現れて物事が円滑に進む」、「はっきりと自己主張をすれば、きちんと見返りを得ることができる」という意味合いである。あなたは思うだろうか？

### ◆Youtuber フォロワー増せば 所得増え

「影響力のある(influential)」について、同義語にはpowerful, strong, important, controllingなどが含まれる。いずれも人や組織、学説に対する影響の大きさをデジタルで数値化しているが、その方法で価値の程度がわかるだろうか？ 如何せん、重要視されるのは、経済的に儲かるか、勝ち組か負け組かというような経済的な指標の場合が多いようだ。

日本では長年、和の精神を尊びながら、義理や人情、恩を大切にしてきた。しかし、近年はグローバルスタンダードによる価値観が急速に進んできている。仕事内容がコンピュータ化されてきたため、当然この方向に進んでいくのは仕方がない。その中で、ICT(情報通信技術)の発展によってユーチューバーなど新しい職種も出現してきた。幼い子供たちまでが、将来の職業にYoutuberがいいとまで言っている。インターネット上でサイトを見に来る人々が増えると収入が増えるというシステムである。しかし、中には、道徳観・倫理観が欠如した過激なコンテンツもあり、様々な問題が起こりつつあるのも確かだ。



かつて、国際交流に詳しい知り合いから助言をもらったことがあった。日本とは異なり米国で重要なのは、仕事の正確さ・内容よりも、人々に広く知られ有名である(popular)ことだと。現代社会では、コツコツと地道に努力する人々よりも、博打が当たったように何かで有名になりインフルエンサーとなって勝ち組になる人々のほうが、価値があるのであろうか？

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)